

異文化理解研修（韓国）参加者レポート 2015

総合政策学部 1年 小川愛希

私は今回、韓国にある蔚山大学校での短期留学に参加しました。蔚山は釜山の近くにあります。自然豊かで大学の近くには多くのお店があり、とても活気がある街でした。

私は中学生の時から音楽やドラマなどを通して韓国に非常に興味を持っていました。これまで実際に韓国へ行ったことはなく、念願の韓国、そして初めての海外ということでも楽しみだった半面、緊張と不安でいっぱいでした。しかし、現地の方々はとても優しく接してくださったので、そんな感情はいつの間にか無くなっていました。大学のスタッフさんやパートナーさんとてもフレンドリーな方たちばかりで、日本語も流暢に話されたので、私も韓国語を頑張ってもっと勉強し、彼らと韓国語で話せるようになりたいと強く思いました。

授業は他の大学からの参加者も合わせてレベル別にクラス分けされていましたが、どのクラスの先生も個性的な方々ばかりでとても面白かったです。基本的には午前午後と3時間ずつ授業でしたが、ご飯を食べた後の眠たくなる時間でも楽しく、みんな興味深く臨みました。研修の最終日にはクラスごとの発表に向けてクラスみんなで集まって発表の練習をしました。同じ大学ごとに固まることが多かった文化体験や研修中の普段の生活とは違い、他大学の仲間たちと意見交換できる時間が沢山あったことはとても良かったと思います。

皆さんは、韓国といえば辛い食べ物が多いというイメージがあると思います。実際に、チゲや冷麺、チムタクなど辛い食べ物は多かったのですが、どれも美味しかったです。もちろん、辛い食べ物も沢山あり、サムゲタンやサムギョプサル、クッパなどは絶品です。まだ食べたことのない韓国料理もあるので、次回訪れた時はもっと色々挑戦してみようと思いました。

食事の時には韓国と日本の文化の違いがよく分かりました。例えば日本では肘をついて食べたら行儀が悪いとされていますが、韓国では茶碗やお皿を持って食べるのが行儀の悪いこととされ、茶碗などを持って食べる日本とは逆のマナーになります。その国にはその国のマナーがあり、文化があり、自分たちの国の価値観とは違うということを知るもの、とても大切なことだと感じました。

今回の研修では、韓国の人の優しさが印象に残りました。最近では日本と韓国の関係は悪化していますが、そんなことを感じさせないぐらい韓国の方たちは私たちに親切にしてくれました。実際に日韓関係が悪いのは政治上とネットの中だけで、本当は違うということをお互に大変できて嬉しかったです。このことを私たちがもっと広めていくことができたならと思います。

■研修の様子

